

〔 横浜みなとみらいホール 〕
 令和4年度業務計画及び収支予算
 〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

- ※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業
 を示します。
- ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜みなとみらいホール
所在地	横浜市西区みなとみらい2-3-6
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上7階建て
敷地・延床面積	専有延べ床面積 18,688 m ²
開館日	平成10年5月31日（大ホール）・2月1日（小ホール）

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル1階
代表者	理事長 近藤 誠一
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	令和4年4月1日から令和10年3月31日まで
現指定管理者の 管理運営開始日	平成10年2月1日

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

横浜みなとみらいホールの基本方針及び横浜市が進める「文化芸術創造都市」の施策に沿い、企画性が高く新しい視点を提供する事業展開によって国内有数のコンサートホールとしての独自の存在感を高めていきます。それと同時に音楽の持つ力によってもたらされる憧れや喜びを市民の方が最大限に享受し、夢を実現できる場所として愛されるコンサートホールであり続けることを大切にします。これまでの経験とノウハウも総動員しながら第3期の提案書に示した各使命を果たし、豊かな市民生活を支えるとともに、今後直面する様々な課題をも解決していくために、次の5つの方針で横浜みなとみらいホールの運営に取り組みます。

方針1 あらゆる世代の市民が創造性を発揮し活力のある持続可能な社会を支えます

「演奏する」、「聴く」、「制作する」という立場の垣根を意識せず、柔軟に自由に音楽と接する

機会を増やし、演奏家の創造性を高め、主体的に音楽を楽しむ市民の方を増やします。第三期指定管理期間は、演奏家が“ミュージシャン・プロデューサー”となって公演や事業を制作する取組を行っていきます。プロによる公演のほかに市民の方の利用率がとても高いことも当館の特徴です。指定期間を通じて、「制作する演奏家」と「演奏する市民」を応援し、増やしていくことで、年齢や性別、既成の立場に関係なく、心を柔軟にし、新しい発想を生み出す土壌を育み、活力ある社会の実現を目指します

方針 2 次世代育成や社会包摂に対する取組をさらに発展させます

年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的な状況等に関わらず、誰もが心豊かに暮らせる社会を支えるために、音楽は大きな力を発揮します。当館では、これまでも障害のある方が参加する事業を積極的に行ってきましたが、これをインクルージョンという視点で、音楽の力をさらに活用し、さらに様々な立場の人々への取組に広がっていきます。

方針 3 困難な状況において音楽がいかに関心の人々の心を支えていくものであるかを示します

感染症の影響によって、音楽活動だけでなく、人々とのふれあいによる心の安らぎが蝕まれることがないように、市民の方が生の音楽に触れ、感受性や想像力を育む機会を作り出します。指定期間を通じて、小さな演奏規模のコンサートや臨場感のあるオンライン配信による音楽体験など、あらゆる工夫で臨機に対応できる運営を目指します。

方針 4 高い芸術性と創造性を発揮し街の魅力を発信するブランドとなります

住む人、働く人がこの街を誇りと感じられる価値と魅力を発信するブランドとしての信頼を形作り、国内外で高い評価を受ける演奏者が更に創造性を発揮する機会を作り、また、次世代を担う若者が公演の企画や運営を継続することで、高い芸術性と創造性が発揮されるコンサートホールとしての信頼を確立します。ユニークベニューとしてのMICE誘致への協力も含め、好循環を生み出すことを目指します。

方針 5 市民が生き抜く力を湧きたたせる精神的基盤となります

質の高い生の芸術が生み出される瞬間に立ち会い、そこでしか感じることでできない刺激に感性が触れることによって聴く力、観る力、感じる力が育まれます。横浜みなとみらいホールは、年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的な状況等にかかわらず、このような経験によって、市民の方が生きる喜びを感じ、多様な価値観を得ることで、生き抜く力を湧きたたせる精神的基盤となります。

(2) 令和4年度の業務の方針

ア 全体について

令和4年度は横浜みなとみらいホールの第三期指定管理期間の初年度であるとともに、「横浜音祭り 2022」が開催される年でもあり、さらに長期改修工事に伴う休館期間と再開館以降の運営期間にまたがるという点でも特殊な年度となります。

再開館までの期間は「18区コンサート」をはじめ市民がより身近に感じる様々な会場で事業を展開し、横浜みなとみらいホールの企画力をアピールします。また、「横浜音祭り 2022」との連

携及びメディア、音楽業界、一般市民など対象ごとに戦略的に展開する広報・プロモーションにより多方面に対して再開館への期待を盛り上げ、リニューアルオープンを祝う一連の記念事業を成功に導きます。

一方で市民の方にご利用いただくための再開館に向けた準備業務も、ホールレセプションистの募集と研修、利用打合せの再開など多岐に亘るため、遅れや漏れが発生することのないよう、入念な計画と各業務の進捗確認によってしっかりと進めます。

再開館後は、第三期指定管理提案書に示した特徴的な事業や運営が、新たに策定したコンセプト、スローガン及びシンボルマークと相まってより多くの人々の心に残るよう、横浜みなとみらいホールプレゼンスを高め、存在感を強化しながらその後の広がりにつなげていきます。

新型コロナウイルスの影響については引き続き予測が難しいなかで、国内のみならず世界的な状況にも注視していく必要があります。

今後も国内、国外の状況が常に変化する可能性があることを念頭に置き、限られた経営資源である人員、資金、時間をバランスよく投入し、状況に応じて対応できる柔軟な運営を心掛けていきます。

イ 使命1 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となります。

リニューアルオープンや「横浜音祭り 2022」を好機と捉え、国内外で一定の評価を受け将来を嘱望される演奏家と連携し、企画性の高い新しい音楽を発信する“ミュージシャン・プロデューサー”による企画を積極的に展開します。初代ミュージシャン・プロデューサー藤木大地氏の創造性や新しい視点を活かし、リニューアルオープンへの期待感やコンテンツの独自性・発信性を高めます。

また、歴史を積み重ねてきた伝統ある事業「ジルヴェスターコンサート」等の見直しや価値の再構築を行い、時代を捉えた新たな魅力の発信を目指します。

ウ 使命2 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動の場を提供します。

リニューアルオープンを楽しみにしてくださるお客様の期待に応えるため、国内プロオーケストラを始めとした質の高い公演の誘致を行います。また協力団体や、初めてのご利用となる一般団体に対して、利用受付から利用終了までスムーズに、快適に、安全にご利用いただけるよう、舞台技術者とともに適切にサポートし、専門性を活かしたコーディネーター機能を発揮します。

エ 使命3 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。

“演奏する人・聴く人・つくる人”と固定化しがちな立ち位置を超えて、柔軟で自由に楽しめる新しい価値を創出することで、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。

“中学生プロデューサー”は子どもたちがプロデューサーとして主体的に制作に携わり、同世代だけでなく、異なる世代のプロフェッショナルとも交流しながら公演を創り出す取組みです。令和4年度は「こどもの日コンサート」だけでなく「横浜音祭り 2022」にも活動の場を広げ、子どもたちの制作体験を深めます。

また、令和4年度から2代目ホールオルガニストに近藤岳氏が就任します。新ホールオルガニ

ストの次世代育成への想いに呼応して、横浜の文化資源とも言えるオルガンに直接触れ、演奏する機会をつくる高校生以下の10代を対象とした新しいプログラムを始動します。

オ 使命4 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、あらゆる人達が音楽に触れる機会を創出します。

リニューアルオープンや「横浜音祭り 2022」を機に、あらゆる人が音楽と出会う機会を多角的に創出します。

インクルーシブなコンサート「ミュージック・イン・ザ・ダーク」の開催、特別支援学校のリニューアル内覧会への招待、海外からの遠隔操作による「だれでもピアノ」体験等、横浜みなとみらいホールの企画力とデジタル技術を活かし、音楽との接点を広げる取組みを推進していきます。

カ 使命5 利用者の視点に立ち、持続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献します。

社会の変化に対応し施設運営の持続可能性を高めるために運営方法を見直すとともに、すべてのお客様が安心してコンサートホールで演奏会を楽しめるよう利用者サービスの質の向上をはかります。

また「音楽を奏でる街」として都市のブランディング確立を目指すみなとみらい21をはじめとした地域との多彩な連携に取り組み、都市としての横浜の魅力発信に貢献します。

キ 使命6 大規模改修による長期休館を活かし、横浜みなとみらいホールのプレゼンスの向上を図ります。

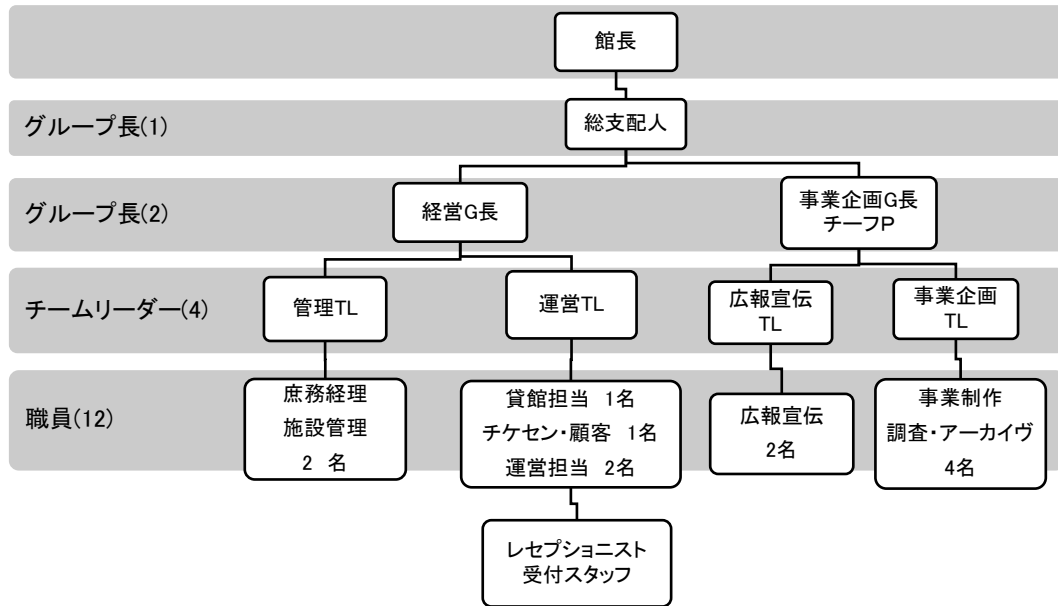
リニューアルオープンを当館プロモーションの絶好の機会ととらえて、来場者や利用者の期待を高める広報プロモーションを展開します。休館中に定めたコンセプトとスローガンを活用して当館の存在意義を打ち出し、「ミュージックシティ」を打ち出す街のブランディングに寄与し、市内唯一のクラシック音楽専門ホールとしてのプレゼンス向上を目指します。

ク 使命7 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続します。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合には、徹底した感染防止対策の下で、安全に自主事業及び貸館業務を実施し、市民の文化活動の基盤として施設運営を継続します。

横浜市と緊密に連携を取りながら新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底するとともに、さまざまなステークホルダーと情報共有を行い感染症の影響を最小限にする施設運営を実現します。

事業面ではこれまでデジタル化して蓄積した事業コンテンツを有効活用することにより、事業効果の達成を目指します。

4 運営組織の構造、人員配置



芸術監督としての館長の指示命令を受けて発信力を高めるために、事業企画グループに広報チームを位置づけ、事業制作力と広報発信力のスキルを高め企画力を強化します。チケットセンター、レセプションist、受付スタッフを統括管理し横断的かつ効率的な館の運営を実現し質の高いサービスを提供します

5 令和4年度の業務の取組

(1) 文化事業

「横浜音祭り 2022」をはじめ、アーティスト・市民・街・メディアなど多様なステークホルダーとの連携によって、リニューアルオープン記念事業を成功に導きます。多くの注目が集まるこの時期を好機と捉え、企画性が高く新しい視点を提供する事業を展開し、国内有数のクラシック音楽専門ホールとして独自の存在感を高めることを目指します。

また、市内唯一の公共コンサートホールとして、「誰もが心豊かに暮らす横浜の実現」を目指し、引き続き、子どもたちをはじめとする次世代育成事業や、あらゆる人へ音楽を届ける社会包摂事業、地域・他ジャンル等との連携事業なども積極的に実施します。

なお、具体的な取組内容や指標は指定管理業務計画表に記載します。

(2) 施設運営

ホールのリニューアルオープンに際して施設運営の適切な立ち上げ及び適切な利用提供に取り組みます。舞台業務、警備業務を専門会社に委託するとともにレセプションist募集や教育など必要な準備を進めます。運営面の変更点を利用者に周知するとともに、ウェブサイトから施設予約ができる利用システムの導入を実現します。コンサートピアノについては最良の状態となるよう調整を行うとともに、オーバーホールを実施するパイプオルガンについては、演奏家にレジスト方法を分かりやすく伝えるよう利用マニュアルを整備します。具体的な取組内容や指標は、指定管理業務計画表に記載します。

(3) 施設管理

大規模改修工事後のリニューアルオープンに際して各公演が最適な空間で音楽を奏でることができるよう、施設設備の更新状況を把握し適切な維持管理を実現します。コンサートホールとしての快適空間を維持するとともに、関係法令に則り安心・安全な施設管理を徹底します。具体的な取組内容や指標は指定管理業務計画表に記載します。

(4) 収支

適切な広報プロモーションと顧客戦略により確実に事業収入を確保するとともに、業務の基準で示された指定管理料をもとに安定した施設運営を実現します。具体的な取組内容や指標は指定管理業務計画表に記載します。

(5) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

横浜市から示された書式に則り、定められた期限に業務計画書、業務報告書、自己評価表を提出します。

(6) その他

大規模改修工事後の適切な時期に PLOT48 からホール事務所内への移転を実施します。具体的な取組内容や指標は指定管理業務計画表に記載します。

6 使命の指標の達成状況

(1) 使命1 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点となります。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目			R4 実績	R5 達成 指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成 指標	R8 実績
1	ホール における ジャンル別 の公演 回数及 び入場 者数	公演 数	クラシカル	—	27本	—	—	—	31本	—
			ポピュラー	—	2本	—	—	—	2本	—
	入場 者数	クラシカル		32,000 人					40,000 人	
		ポピュラー		2,500 人					3,000 人	
2	横浜みなとみらいホールなら ではの企画数			—	10	—	—	—	12	—
3 ★	プロデューサー・イン・レジ デンス事業			—	6事業 (累計)	—	—	—	15事業 (累計)	—
4 ★	新作委嘱作品と過去委嘱作品 再演本数			—	4作品 (累計)	—	—	—	10作品 (累計)	—

5 ★	おとなポップス公演数	—	2 企画 (累計)	—	—	—	10 企画 (累計)	—
--------	------------	---	--------------	---	---	---	---------------	---

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	横浜みなと みらいホールの事業モニター (※) による評価	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	4つの事業に対し、事業モニター実施 (リニューアルオープン事業 (2022 年のみ) 、おとなポップス、オルガンコンサート・シリーズ、ジルヴェスターコンサート、クラシック公演 (2023 年以降))
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	モニタリングの結果、対応すべき事柄について事業に反映されている
		R 8 実績	—
2	横浜みなと みらいホールの事業等のアーカイブ作成と公開	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	アーカイブの立ち上げ
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	アーカイブ更新・運用 (定期的に映像公開)
		R 8 実績	—

ウ 使命 1 を達成するために重点的に取り組む事項

本年度は、リニューアルオープン・ラインナップ及び「横浜音祭り 2022」を使命 1 の中核事業におきます。具体的には、リニューアルオープンを「横浜音祭り 2022」期間と併せて、より多くの市民の皆さまにご来場頂けるよう、祝祭感や話題性を高めるラインナップで実施します (リニューアルオープン記念事業、藤木大地×オーケストラ公演、横浜音祭りクロージング公演:反田恭平×ジャパン・ナショナル・オーケストラなど)。また、プロデューサー・イン・レジデンス事業として、初代ミュージシャン・プロデューサー藤木大地の創造性や新たな視点を活かし、国内外から高い評価を受ける創造・創作の拠点として、発信力を高めていきます。

この他に年度を通じて「指定管理業務計画表」に記載の通り、横浜みなとみらいホールから発信する独自性の高い歴史ある事業について、見直しを行います。具体的には、歴史を積み重ねてきた伝統ある「ジルヴェスターコンサート」やオルガンコンサート・シリーズなどについて、より高い独自性や同時代性を追求することによって市民に音楽を根付かせていきます。

(2) 使命2 市民や文化団体の音楽活動を支え、音楽専門ホールとしての活動を提供する。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	大ホール (日単位)	—	97%	—	—	—	97%	—
	小ホール (日単位)		97%				98%	
	各諸室の利 用率(コマ単 位、日単位)		68%				71%	
	リハーサル室 (日単位)		68%				71%	
	音楽練習室 (コマ単位)		82%				85%	
	レセプション ルーム (コマ単位)		35%				40%	
2	プロフェッショナルのオーケ ストラ、アーティストの指定 管理者以外の公演数		90				100	
3 ★	利用下見・相談件数	—	150件	—	—	—	150件	—
4 ★	利用者アンケートによる満足 度 (5点満点)	—	4.7 以上	—	—	—	4.7 以上	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	市内音楽団体の 活動状況把握	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	市内音楽団体リスト整備・運用
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	リスト更新とともにホール利用時の助言等に生かす
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

国内プロオーケストラをはじめとした音楽団体に対して公演運営が適切に実施できるよう、施設と設備のリニューアルに関する情報を広く周知します。具体的には当館公式ウェブサイトを通じて広く周知するとともに運営に関するマニュアルを整備作成して利用者の公演運営をサポートします。また、当館が音楽専門ホールとして市民や文化団体の音楽活動を支えること

ができるよう、当館を利用する文化団体のリスト整備に着手します。

- (3) 使命3 次世代を担う芸術家や音楽と社会をつなぐ人材を育むとともに、音楽に親しむ市民の裾野を広げる。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	子ども（高校生以下）の来館者数	—	主催公演 35,000 人	—	—	—	主催公演 40,000 人	—
2	初めて横浜みなとみらいホールを訪れた人の割合(世代別、アンケート結果)	—	全世代 20%	—	—	—	全世代 20%	—
3 ★	こどもの日コンサートの企画に参加した中学生の人数	—	30人 (累計)	—	—	—	40人 (累計)	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	子どもの頃や若手の頃に横浜みなとみらいホールで活動を行い、横浜みなとみらいホールから活躍の場を広げていったアーティストの状況把握	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	アーティストリスト作成
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	リスト更新・主催事業への起用
		R 8 実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

子どもたちが横浜みなとみらいホールに集うことができる多彩な企画を実施します。「こどもの日コンサート」では会場に集う子どもたちに加え、中学生がプロデューサーとして公演制作に携わり、社会の中で音楽の持つ力を意識する人材を育みます。特に、本年度の中学生プロデューサーは「こどもの日コンサート」だけでなく、「横浜音祭り 2022」にも活動の場を広げ、音楽を通じた社会との交流体験を深めます。

また、「指定管理業務計画表」に記載の通り、「心の教育ふれあいコンサート」による本格的なクラシック演奏鑑賞、中高生によるジャズ演奏活動「みなとみらい Super Big Band」など、若年層の来館を推進するプログラムを計画的に実施、音楽に親しむ市民の裾野を広げます。

(4) 使命4 年齢、性別、国籍、言語、障害の有無、経済的状況等にかかわらず、あらゆる人たちが音楽に触れる機会を創出する。

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	社会包摂の実現を目指す事業数	—	5 事業	—	—	—	5 事業	—
2	学校等へのアウトリーチの実施数	—	5 事業	—	—	—	5 事業	—
3 ★	特別支援学校との協働プロジェクト数		2 件				2 件	
4 ★	支援学級との協働プロジェクト数	—	4 件	—	—	—	4 件	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	あらゆる方に音楽に触れても らうためのノウハウの蓄積	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	マニュアル作成
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	マニュアル更新
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

あらゆる人達が音楽に触れる機会を創出するために、障害の有無に関わらず誰もが音楽の楽しさを楽しむことができる事業をリニューアルオープン期間・「横浜音祭り 2022」期間中に実施、発信力を高めます（ミュージック・イン・ザ・ダーク、だれでもピアノ等）。また、「指定管理業務計画表」に記載の通り、特別支援学校等向けの内覧会も実施することで、今後の施設利用の提案に活かします。

(5) 使命5 利用者の視点に立ち、継続可能性を高める施設運営を行い、地域社会に貢献する。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	—	0件	—	—	—	0件	—
2	法定点検等の実施率	—	100%	—	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	—	90%	—	—	—	90%	—
4 ★	施設・設備の更新状況を把握し、事業継続計画策定		危機管理マニュアル再整備				危機管理マニュアル検証	
	災害マニュアルに則った災害訓練		2回				2回	
5 ★	地域における連携先の開拓(施設、企業)		1件 (累計)				5件 (累計)	
5 ★								

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング (アンケート調査、インタビュー調査の実施)	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	利用者懇談会など実施
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	ヒアリングで得られた要望のうち必要と判断される案件に対し迅速に対応できている
		R 8 実績	—
2	管理運営費推移の要因分析	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	総括
		R 8 実績	—

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

再開館にあたって実施するホール運営の変更点を分かりやすくまとめ、利用者との打合せで丁寧に確認を行います。特に8月から開始する音楽練習室のウェブ予約については事前にご利用方法に関する情報を広く周知しスムーズにご利用いただけるよう心がけます。

「音楽を奏でる街」として都市のブランディング確立を目指す横浜みなとみらい21が設置する、「みなとみらい21ミュージックシティ推進委員会」に参画しエリアプロモーションに協力するとともに、唯一のコンサートホールとしてのプレゼンス向上を目指します。

(6) 使命6 大規模改修による長期休館を活かし、横浜みなとみらいホールのプレゼンスの向上を図る。

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4実績	R5達成指標	R5実績	R6実績	R7実績	R8達成指標	R8実績
1	SNSフォロワー数	—	8,000	—	—	—	10,000	—
2★	大規模改修工事期間の18区コンサート開催と有料入場者数 2,000人	—	—	—	—	—	—	—
3★	大規模改修工事期間のウェブ会員新規登録者数 既存登録者数の10%以上	—	—	—	—	—	—	—

※2・3については、R4実績をもとに目標設定予定

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	リニューアルオープンに際してのウェブサイトでのアピール	R4実績	—
		R5達成指標	実施 (ウェブサイト更新)
		R5実績	—
		R6実績	—
		R7実績	—
		R8達成指標	継続
		R8実績	—
2	横浜みなとみらいホールに関するコメントの把握	R4実績	—
		R5達成指標	把握
		R5実績	—
		R6実績	—
		R7実績	—
		R8達成指標	総括
		R8実績	—

3	リニューアルオープンに向けてのスタッフ育成	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	研修実施等
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	—
		R 8 実績	—

ウ 使命6を達成するために重点的に取り組む事項

大規模改修による長期休館を活かし、横浜みなとみらいホールらしいホールのプレゼンス向上を図るため、横浜ゆかりのソリストと室内楽編成による「横浜18区コンサート」を横浜みなとみらいホールの出張コンサートとして市民の方に身近な8つの会場で実施し、SNSも活用しながら横浜みなとみらいホールの存在を市民の方にしっかり印象付けるとともに、リニューアルオープンとそれに続く記念公演への期待を高めます。

また、新たな公式ウェブサイトと会費無料の登録制ウェブ会員制度をスタートさせ情報拡散の強化を図ります。

令和4年度 「横浜みなとみらいホール」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	505,794,000	0	505,794,000	0	505,794,000	横浜市より
通常運営費	473,068,000		473,068,000		473,068,000	
大規模改修(移転関係等)	32,726,000		32,726,000		32,726,000	
市受託料収入	20,090,000		20,090,000		20,090,000	(心の教育ふれあいコンサート)
利用料金収入	87,000,000		87,000,000		87,000,000	11月施設貸し出し再開
自主事業収入	168,536,000		168,536,000		168,536,000	
自主事業収入	98,236,000		98,236,000		98,236,000	
市負担金収入(アクション)	70,300,000		70,300,000		70,300,000	アクション事業、学校プログラム
事務局繰入金収入	22,000,000		22,000,000		22,000,000	リニューアルオープン広報事業
雑入	18,950,000	0	18,950,000	0	18,950,000	
印刷代	60,000		60,000		60,000	
自動販売機手数料	300,000		300,000		300,000	
協賛金・助成金・寄付金	16,000,000		16,000,000		16,000,000	企業協賛金及び助成金
その他(ゴミ処理代など)	2,590,000		2,590,000		2,590,000	
収入合計	822,370,000	0	822,370,000	0	822,370,000	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	226,810,000	0	226,810,000	0	226,810,000	
給与・賃金	187,771,000		187,771,000		187,771,000	事務室およびチケットスタッフ、レセプション
社会保険料	22,251,000		22,251,000		22,251,000	
通勤手当	10,443,000		10,443,000		10,443,000	
健康診断費	214,000		214,000		214,000	
勤労者福祉共済掛金	117,000		117,000		117,000	
退職給付引当金繰入額	6,014,000		6,014,000		6,014,000	
事務費	34,452,000	0	34,452,000	0	34,452,000	
旅費	567,000		567,000		567,000	
消耗品費	2,135,000		2,135,000		2,135,000	施設消耗品、舞台消耗品、衛生用紙類、印刷消耗品等
会議賄い費	30,000		30,000		30,000	打合せ時喫食費等
印刷製本費	275,000		275,000		275,000	パンフレット、様式等印刷費
通信費	1,158,000		1,158,000		1,158,000	
使用料及び賃借料	8,929,000	0	8,929,000	0	8,929,000	
横浜市への支払分	96,000		96,000		96,000	横浜市目的外使用料(ドリンクコーナー等)
その他	8,833,000		8,833,000		8,833,000	各種賃借契約(B1F駐車場、携帯電話抑止装置等)費用
備品購入費	1,100,000		1,100,000		1,100,000	
図書購入費	0		0		0	
施設賠償責任保険	72,000		72,000		72,000	みなとみらいホール分
委託費	13,613,000		13,613,000		13,613,000	予約システム、チケットシステム、託児、防災設備点検等の委託
職員等研修費	34,000		34,000		34,000	
振込手数料	360,000		360,000		360,000	
リース料	1,793,000		1,793,000		1,793,000	各種リース契約(PC、サーバー、印刷機、コピー機等)費用
広報宣伝費	320,000		320,000		320,000	チケットセンター再開広報、避難訓練コンサート制作
手数料	3,742,000		3,742,000		3,742,000	クレジット決済手数料、廃棄物処理費等
地域協力費	324,000		324,000		324,000	QSY負担金、MM21負担金等
事業費	227,324,000	0	227,324,000	0	227,324,000	
自主事業(指定管理料充当の自主事業)費	22,644,000		22,644,000		22,644,000	心の教育ふれあいコンサート
自主事業費(アクション)	0		0		0	予算では自主事業費に合算。決算時に対象事業の経費を切り分ける。
自主事業費	176,970,000		176,970,000		176,970,000	
広報関係	27,710,000		27,710,000		27,710,000	リニューアルオープンPR広報関係を含む
管理費	214,755,000	0	214,755,000	0	214,755,000	
光熱水費	62,279,000	0	62,279,000	0	62,279,000	
電気料金	13,000,000		13,000,000		13,000,000	
冷温水料金	42,079,000		42,079,000		42,079,000	
水道料金	7,200,000		7,200,000		7,200,000	
清掃費	0		0		0	
修繕費	2,000,000		2,000,000		2,000,000	小破修繕費
保安警備費	11,212,000		11,212,000		11,212,000	保安警備委託
機械警備費	220,000		220,000		220,000	
設備保全費	116,678,000	0	116,678,000	0	116,678,000	
電気設備保守	0		0		0	工事期間中に実施されるため、令和4年度は¥0
建物管理費	76,648,000		76,648,000		76,648,000	ホール統括・設備・清掃委託、分煙装置清掃/保守委託
舞台管理費	32,246,000		32,246,000		32,246,000	舞台技術委託、舞台設備保守点検
その他委託費	3,478,000		3,478,000		3,478,000	環境整備、QSYBAシステム、排水槽清掃他
その他保全費	4,306,000		4,306,000		4,306,000	楽器等保守経費
共益費	22,366,000		22,366,000		22,366,000	QSY管理組合経費、各種団体会費等
公租公課	26,375,000	0	26,375,000	0	26,375,000	
事業所税	0		0		0	
消費税	26,264,000		26,264,000		26,264,000	
印紙税	80,000		80,000		80,000	委託契約、商標登録/登記事項証明書の申請等
その他(電波使用料など)	31,000		31,000		31,000	電波使用料(トランシーバー、携帯電話抑止装置)、無線局登録
事務経費(計算根拠を説明欄に記載)	59,928,000	0	59,928,000	0	59,928,000	
本部分	59,928,000		59,928,000		59,928,000	
当該施設分	0		0		0	
事務所移転関連経費	32,726,000	0	32,726,000	0	32,726,000	
移転費用(引っ越し・整備費等)	29,901,000		29,901,000		29,901,000	
事務所管理費用(賃借料、管理費、光熱水費)	2,825,000		2,825,000		2,825,000	PLOT経費
二一ズ対応費			0		0	
支出合計	822,370,000	0	822,370,000	0	822,370,000	
差引	0	0	0	0	0	

自主事業費収入				0	
自主事業費支出				0	
自主事業収支				0	